

おかし〜

齋藤龍喜

十四日目、雨天。寝台ニテ交戦中。敵軍床デ泳ギ回ルプリングルズ数百匹。通信手段ハ一昨日ノ晩狂ツタ黒田ニ電話線切ラレテ無シ。紐救無シ。隊員残り僕ト二名。他ハ床ヘ身投ゲヲシテイッタ。三秒ルール無シ。食割レテイル。夜中隣デ隊員坂本龍馬ガ“毛虫を踏んでしまったじゃきい”ト連呼スル。正気カコイツハ。カールガ、我々ハ依然枢軸国ニ依ル絨毯爆撃ヲ望ンデイル。

跨道橋。干上がった音の中を泳いで奴らはやってきて、今じゃ凍ったどぶ川にまで狭苦しく侍らせている。

はなこや久しぶり。もう水は食べていないのか。

きレ

嫌であります

きレ

嫌であります

斬レ

ここは変わってしまったなあ。水遊びが好きだった子供たちはめっきりと消え。ただ竹の葉と川面がまぶたをとじて。

捨てられた錦鯉もどこかへ。

鳥が飛んできた。

雪が降っている。

黒田さんのやさしい背中だ。帰れたら張鶴と勾玉で献杯じゃ。

暖かいなあ。

“血みどろだ”

坂本さんが抱きしめてくれる。誇りであるきに。

ほがらかな野原であるなあ。